

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念があり、見やすいところに掲げている。理念を共有し、日々心において実践を取り組んでいる。	法人として三つの理念があり、それをより具体化したホームの理念がある。「笑顔」、「言葉」、「安心」の三つを骨子としたものでリビングの壁の模造紙に大書され、利用者や家族、外来者にも分かり易くなっている。職員も機会あるごとに唱和し、時には利用者も加わるというほど周知徹底しており、職員も語ることができる。理念にそぐわないような言動は殆どないが、万が一そのようなことがあれば職員同士でフォローしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等外出の際は、地域の方に挨拶し交流を図っている。近所のお宅へお茶飲みに招いて頂いたり、来園して野菜、お花を差し入れて下さることもある。地域行事には積極的に参加させて頂き、交流を図っている。	隣接の養護老人ホームや隣接地の有料老人ホームなど、法人施設全体として自治会に加入しているため地域の情報が回覧板等を通じて入手でき、地域公民館の新築一周年記念行事などに招待を受け参加している。隣接施設も含め法人として環境美化活動を推進しており毎週金曜日には周辺道路沿いの草取りや清掃などを行なっている。幼稚園のお楽しみ会や小学校の運動会にもお誘いがかかり利用者が出掛けている。県社協を通じての高校生・大学生のインターンシップや中学生の体験学習での交流も進めている。朗読、手芸、俳句、絵手紙他、多くのボランティアも来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	うえだはら敬老園としては、地域行事の際に、介護教室、健康相談等を行い地域貢献を取りいれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や、活動報告を毎回行っている。また、会議の中で出た、上田南幼稚園、川辺小学校との交流など良さを取り入れている。	奇数月の第三木曜日に定例化している。時には家族会の同日に実施し家族の参加を促すこともある。利用者、家族、地域住民代表、消防署員、地域包括支援センター職員、市担当部署職員が参加し活発な意見交換が行なわれている。避難訓練での見守りについて助言などをいただきホームでも前向きに検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	うえだはら敬老園として、常に市の担当者と連携を図り、サービスの向上に取り組んでいる。運営推進会議にも毎回出席して頂き、相談に乗って頂いている。	事故報告書の提出について軽微なもので提出すべきかどうか判断に迷ったりした時などに市役所担当窓口相談を掛けている。その他介護サービスに関わる情報も適宜頂いている。介護認定の更新の際には市の認定調査員がホームに来訪し家族も同席しホームから情報提供をしている。ホームの職員が認定調査員の研修を受け登録し、今後は代行することもできるようになった。市派遣の介護相談員2名が3ヶ月に1回ホームを訪れ、利用者とは話をし結果をホームに伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人ひとりの居場所を確認している為、職員が居室の鍵を掛けることはない。1階へ降りるエレベーターは常に施錠された状態だが、家族に説明し了承を得ている。	法人として研修体制が整備されており、職員は毎年必ず身体拘束をしないケアについての研修を受けている。職員はその弊害についても正しく理解しており、利用者から外へ出たいという要望があったり、素振りが見えた場合には個別に付き添ったり見守りで対応している。	

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法をファイルし、読み合わせを行っている。また、虐待の徹底防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度についての資料をファイルし、読み合わせを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明等詳しく行い、納得を得た上で、契約の手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は介護相談員、第三者委員が来園し、1対1で話を聞いてもらっている。ご家族は、面会時または電話にて利用者の状況を伝えている。また、グループホーム便りを発行して暮らしぶりを伝えている。出された意見、要望は会議で話し合い反映させている。	利用者本人の意見や要望については職員が可能な限り対応している。今は駐車場になっている自分の生家をみたいと言えば個別に車で周辺をめぐり、昔の思い出話などをしていただき満足につなげている。職員はそうした中から少しでも良い支援につながる糸口が発見できるのではないかと努力している。家族の来訪も月1～3回の方が多く、来訪時に家族からの意見、要望、苦情等を直接聞き入れて運営に反映しており、玄関横の意見箱を利用される方は殆どいない。家族会が開かれ、外出行事にも家族をお誘いすることで意見・要望等を聞く機会を多く持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、常に各職員の意見を聞き、運営に反映させている。	法人としての人事評価制度が本格的に稼働し始め、職員自身が設定した目標に対し毎月自己評価をし、6ヶ月ごとに管理者との面談が行われている。これにとらわれず月1回のスタッフ会議や日頃の業務の中で職員からの意見やアイデアを聞き入れている。職員間の意思疎通が十分にとられておりチームワークが良いということについては利用者や家族も十分感じており褒めの言葉が寄せられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で人事評価制度を導入し、個人での自己評価を毎月行うほか管理者との面談等を通し、実績を評価と給与に反映させる仕組み作りを行い、向上心を持って働ける職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加できるようにしている。専門職としてのスキルアップを図るため、各職員に、資格取得に向けた勉強会や実践者研修への参加をすすめている。		

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと相互訪問や、事例検討等の意見交換を行い親睦を図っている。また、活動を通じて意見をケアに取り入れサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始以前に本人と面会を行い、本人自身の訴えや願いをよく聴き、受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階から困っている事を聴き、安心して利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階では、まず本人、家族の話をしっかり聴いて、内容によっては、他のサービス活用を勧めることも考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜び等を知ること努め、共に支えあえる関係作りに留意している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の様子や変化等は、家族に報告し共有して支援の方法、対応について意見を交換している。また、家族会を開催し、家族同士の交流の機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族と会ったり、家族との外出や外泊、馴染みの場所に出かける機会を作っている。利用者の友人や親戚が訪ねて来られることもあり、お付き合いが続くよう、雰囲気作りなどにも配慮している。	生花のお弟子さん、利用前の卓球仲間、社交ダンスのお仲間などを迎え入れる利用者もおり、馴染みの人々のお付き合いが続いている。隣組の人たちが大挙して訪問し利用者とともに楽しいひと時を過ごし、その中のお一人は併設のデイサービスに通う度ごとにホームに立ち寄り利用者がデイサービスを訪ねている。お盆や正月、月命日などに一時帰宅する利用者もおり、職員は馴染みの関係を継続することに努めている。	

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士が交流を持てるように配慮している。また、孤立しがちな利用者には、家事やレクリエーション参加で、自然に皆の輪の中に入れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退居を余儀なくされる場合でも、退院後の生活について等を相談して頂けるよう関わりを保っている。終了の際に、利用者や家族にその旨をきちんと伝えるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や意向を把握できるよう、日々関わりを持ち探るよう努めている。本人本位の検討を心掛けている。	高齢化にともない利用者の入れ替えも年に数件あるが、一人ひとりの生活歴について十分把握しており、利用後に入手した情報も職員間で共有し好きなことや嫌いなこと、したいこと等、その日その時に利用者に関き意向に合わせている。手芸や生花、卓球など、利用前からの趣味の継続には力を入れ、また、ボランティア指導による絵手紙や塗り絵などの創作活動に思わぬ力量を発揮する方もおり、達成感を充足することと発表の場を設けることで一人ひとりの意欲を引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、本人や家族に尋ねたりしながら、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、勤務交代の際の申し送りや記録によって情報共有し、対応を考えている。月に一度スタッフ会議を実施し、それぞれの暮らし方とそのための支援を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー等を中心として、本人、家族、関係者の希望や意見を反映した介護計画を作成している。	各職員は一人から二人の利用者を担当しており計画作成担当者や相談し介護計画を作り上げている。毎月のスタッフ会議でもケアカンファレンスの部分に時間を割き、利用者一人ひとりの心身の状況について検討を加えている。計画は3ヶ月に1回見直しをしており状況の変化や要望等により作り変えている。家族にも説明がされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことも個別記録に残し、その場になかった職員にも情報が伝わるよう努め、実践や計画の見直しに活かしている。		

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接事業所のクラブ活動やボランティアのご協力を頂いて、趣味活動の充実に努めている。併設のデイサービスの体操・レクリエーションに参加して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	手芸・朗読・絵手紙のボランティアや、レクリエーションと一緒に参加してくれるボランティアを受け入れている。また年2回の防災訓練には消防署へ協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。また、月一度は訪問診療に来てもらっており、各医療機関からの情報は個別記録と共に保管し皆で共有している。	基本的には利用者や家族の希望するかかりつけ医を継続することになっている。協力医でもある隣接地にある同じ法人の運営するクリニックによる訪問診療があることから変更する利用者もいる。24時間、365日の連携体制も整備されているので安心である。また訪問看護ステーションとも契約し、月2回の来訪時に健康状態の確認や相談をしている。訪問看護ステーションの事務所も隣接しているので相談もし易い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の訪問看護ステーションと連携し、医療のことや受診の必要性について等、小さなことでも24時間相談できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、医療関係者と十分に情報交換をし、少しでも早期退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、家族・かかりつけ医と連絡を取り意見・情報交換をしている。また、状況に応じ早い段階から医師からの病状説明をお願いし、家族が安心して納得出来る最期を迎えられるよう支援している。	利用開始時に「重度化対応及び終末期ケア対応指針」が利用者及び家族に説明されている。昨年度もお一人の方をホームで看取った。訪問看護ステーションと連携しての初めての対応であったが医師とも連絡・相談しながら家族も納得する結果となった。他の利用者も自然の流れの中でお見送りをしたという。看取り後に貴重な経験を今後活かすためのメモリアルカンファレンスを関係者で行なった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署による救急法の勉強会を実施し、訓練を行なっている。		

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回にわたり、防災訓練を実施し、迅速な避難が出来るよう努めている。設備点検や緊急時の連絡方法等については日頃から随時確認を行ない、有事の備えに努めている。	法人の全事業所で同日同時刻に一斉防災訓練を実施するなど災害対策には特に力を入れている。法人のエリア別にテーマを決めて月1回各事業所で何らかの訓練を実施している。複合施設全体として地元地区と防災協定を結んでおり地域の人々の協力が得られるようになっている。万が一の時には複合施設の建物を避難所として提供する意向もある。防災設備も完備されており、非常時の備蓄も3日分確保されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、誇りやプライバシーを確保した上で関わりを大切にしている。	法人の基礎研修には人格の尊重やプライバシー保護に関する研修も含まれており職員は必ず毎年受講し日頃の支援の中で遵守している。利用者への職員の呼びかけもさりげなく、昼食後の食器洗いを手伝う利用者へ「ありがとうございます」との一言を必ず添え感謝の気持ちを表していた。利用者の得意とすることを称え、年長者への敬意も絶えず心に持ち、気持ちよく過ごしていただけるように全職員が取り組んでいる。利用者の穏やかな表情からも利用者一人ひとりの尊厳が守られていることが十分窺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を言える雰囲気作りを中心に心掛けている。また、意思表示出来ない方には職員の言葉掛けで表情から探っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、笑顔が見られるように柔軟な心で関わり希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみに必要な支援を行う。月1回、併設事業所の理髪サービスを受けられるよう契約をして頂き、希望者は馴染みの美容院を利用している。行事の時はその場に合う服装で参加して頂けるよう支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、片付けには、毎回利用者に参加して頂いている。ひとりひとりのADLや意思に沿い、仕事を分担している。	季節や行事にあわせメリハリのあるメニューを立て、誕生日にはケーキでお祝いをしている。介助を必要とする方、ミキサー食やトロミ食で対応する方など一人ひとりに合わせ支援している。パンやゼリーなど利用者の好きなものもメニューに加えられている。ベランダではミニトマトやキュウリがプランターで栽培されており、家族からの差し入れもある。利用者全員で仕込み味噌をつくったり、梅干づくりをするなど懐かしい作業に携わっている。行事外出の際に食事処やレストランに立ち寄ることもある。	

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え、季節の食材をメニューに取り入れたり嗜好も配慮している。水分量も確保出来るように、甘味を付けたり、トロミ剤やゼリーを活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を学び、ご自分で出来る方には声掛け、見守りし、支援が必要な方には義歯を外し、口腔内の清潔に努めている。義歯は毎晩洗浄剤を使用し、洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の必要に応じ、声掛け・誘導を行っている。パットやリハビリパンツを使用している方も、できるだけトイレで気持ちよく排泄が出来るよう、支援に取り組んでいる。	リハビリパンツと布パンツを使用している方がほぼ半数ずつとなっている。ホーム利用後にリハビリパンツから布パンツに変わった方も多く、夜間のみ、歩行面の心配からポータブルトイレを居室に置いている利用者もいる。職員の声がけ・誘導による介助が適宜行われているので人前で失敗することは殆どない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に向けて食事メニューを工夫している。下剤を使用する場合は使用過多にならないよう、服用の記録・申し送りをして、その時の状況に合わせた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り、時間等も本人の希望に合わせて入浴出来るよう支援している。また、入浴を嫌がる利用者には安心出来るような言葉掛けの工夫をし、対応している。	浴槽は家庭風呂と同じ大きさであるので利用者にとっては無理なく入れるようになっている。殆どの利用者が見守りが必要としている。入浴の曜日にも利用者の希望に沿っており、毎日入浴する方や夜間に入る方もいる。入浴を拒む利用者には家族と協力し色々な試みをしており、自宅へ帰り入浴後またホームに戻るような取組みも行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方から就寝に向けて、安心した時間の過ごし方を職員で工夫し、就寝リズムが安定するよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をファイルに保管し、全職員が分かるよう徹底している。また、変化等あった場合は随時記録をし、医療との連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や得意な事を理解した上で、家事参加や趣味活動への参加を通し、充実した一日を過ごせるよう支援している。また、個人の能力に合わせ、やりがいを感じて頂けるような役割を提供している。		

グループホームうえだはら敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に対し、出来る限り外出できるようにしている。また、車いす等を利用し歩行困難な方も外へ出られるよう工夫している。ご家族との外出は、積極的に出掛けて頂けるようすすめている。	車椅子の方も増えてきたり利用者の入れ替えもあつたりして全員で散歩に出かける回数は今のところ少なくなっている。近所の方のご好意で庭の花々を見させていただいたり、お茶もいただいたりと気分転換を図っている。そのお宅の居間でくつろぐ利用者のスナップ写真からは自宅にいるような安堵感が感じられた。毎月なんらかの外出行事を企画しており、お花見やつつじ・バラの見学、新緑ツアーやみじ狩りなど家族や顔なじみのボランティアの協力を得て車椅子の方も一緒に遠出している。ホームの居間の壁には外出時のスナップ写真が貼られていて満足そうな利用者の笑顔が見られた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの金銭管理の力量を検討し、お金を所持し、買い物の際に支払えるよう家族とも相談し取り組んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという要望があれば、貸し出している。必要に応じ、見守りや仲立ちを行なう。また、個々に家族、親戚等に葉書を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾品を飾り、季節感を取り入れ、照明、材質等も温かみを感じられるものを使用している。トイレは場所が分かりやすいよう、張り紙を使用している。	玄関を入ると七夕の笹飾りや利用者の手で生けられたヒマワリの大輪が季節を感じさせてくれる。窓が開け放たれており居室から吹き抜けた風が心地良く、中央部分に共有スペースが配置されていることから動き易い動線が確保されている。キッチンと食堂兼居間は対面で話せるようになっており、利用者も食器洗いを手伝いながら職員と楽しそうに話をしていた。廊下や居間の壁には習字や絵手紙、ボランティアとともに楽しんだレクリエーション時のスナップ写真も貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者自身がくつろげる場所を確保している。 (居間、日当たりの良い廊下等)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力もあり、利用者それぞれに合った居室作りに取り組んでいる。	西日が当たる居室にはよはずで日除けがされている。各居室の入り口には上田市街地の主な町名と利用者の氏名が掲げられている。居室内にはクローゼットや洗面台が備え付けられ、テーブルの上には職員手作りの誕生日カードが置かれ、馴染みの人の来訪時に撮った写真などが壁に貼られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、段差解消や手すりを備えつけ、安全を図っている。またできるだけ自力で自由に行動ができるよう配慮している。		